

NEWSLETTER

2018.8.31

THE ACADEMY OF CLINICAL DENTISTRY

第19回 咬合フォーラム

真・顎咬合学 — 噛める咬合治療 —

抄録 / プログラム 2, 3

- 第 37 回 日本顎咬合学会学術大会・総会
海外演者抄録 / 咬合器展示 4
- 第 36 回 日本顎咬合学会学術大会・総会報告
学術大会表彰者一覧 / 講演レポート 5~7
- Informations 7



80



特定非営利活動法人 日本顎咬合学会 ニュースレター No.80

〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-8-2 山京半蔵門パレス 201 TEL : 03-6683-2069 FAX : 03-6691-0261
ホームページ URL : <http://www.ago.ac/>

第19回

咬合フォーラム

真・顎咬合学 —噛める咬合治療—

2018.9.30 (Sun)

9:15～15:30(開場 8:50)

北海道大学学術交流会館 (北海道)

学術委員長挨拶



中島 稔博

咬合フォーラムも今回で19回目を迎えました。これもひとえに、先生方のご協力の賜物であると感謝を申し上げます。

さて、本年6月に開催された学術大会では「真・顎咬合学 輝け日本の歯科臨床!!～臨床力の向上による歯科

界の活性化～」をメインテーマに掲げ、様々な分野での講演や、発表が行われ、盛会のうちに幕を閉じることができました。この、「臨床力の向上」は患者さんにより良い治療を提供するために不可欠であると改めて感じました。

また、近年では、超高齢社会において、本当の意味で「噛める」ことが患者さんの健康に非常に大きな意味をもつことが解明され、医科との連携もより緊密なものとなってきています。

そこで、今回の咬合フォーラムでは「真・顎咬合学—噛める咬合治療」をメインテーマとし、患者さんが本当の意味で「噛める」ことにスポットを当て、古谷野潔先生（九州大学大学院歯学研究院 院長・口腔機能修復学講座教授）には、患者さんが「噛める」咬合治療を実践するための基本的な理論や考え方を、玉置勝司先生（神奈川歯科大学 顎咬合機能回復補綴医学講座教授）には「噛める咬合治療」の臨床的意義や超高齢社会に向けての展望を、河原英雄先生（大分県開業）には、患者さんに「噛める」義歯を提供するための臨床的な実践法を、ご講演いただきます。また富野晃先生（北海道開業）に座長をお願いし、3名の先生方のご講演を更に深く紐解いていただきます。

最後に、今回の開催にあたり、多大なるご尽力をいただきました。太田祥一北海道支部長をはじめ、支部委員の先生方に厚くお礼申し上げます。

Program

09:20～10:50

咬合理論の臨床での有効性を再考する



古谷野 潔

九州大学大学院
歯学研究院 院長・
口腔機能修復学
講座 教授

咬合は、歯科医師なら誰もが毎日考え、取り組まねばならない歯科医学の基本的テーマである。しかし、最近は咬合理論についての議論はやや下火のようでもある。そこで今回あらためて咬合理論の臨床での有効性について考えてみたい。講演ではまず、咬合理論の歴史の変遷を概観し、総義歯の咬合理論と有歯顎の咬合理論の基本的な違いについて考察する。その上で、咬合理論で取り上げられる中心位、咬合様式とアンテリアガイダンス、咬頭嵌合位と中心位などの要素が臨床的に有効かについて、文



座長：富野 晃

医療法人社団富野会
山手パール歯科クリニック

献レビューに基づいて検証する。

従来の咬合理論では、上記の咬合要素についての基準を満たしていないと病的（要治療）と判断される。しかし、既定の基準を満たしていなくても、顎口腔系に特に問題なく過ごしていて、特に治療が必要とは考えられないヒトはたくさん存在する。そこで近年、咬合については正常と異常あるいは理想的と病的の2つに分けるのではなく、①理論的理想咬合、②生理的咬合、③非生理的咬合、④治療的咬合の4つに区別して考えることが提案されているので、この提案についても紹介したい。また、時間の許す限り、顎関節症と咬合、咬合と力、ブラキシズム、インプラントの咬合などのトピックを取り上げ、現代の咬合学について考える。

11:00~12:30

超高齢社会における噛める咬合治療の意義とオーラルフレイルへの対応に向けて



玉置 勝司
神奈川歯科大学
顎咬合機能回復補綴医学講座 教授

咬合の重要性は、日本顎咬合学会のメインテーマの1つである。

私は昭和57年に神奈川歯科大学卒業後、補綴学教室に入局し、故青木英夫先生（元神奈川歯科大学補綴学第三講座教授）から咬合学の基盤（アメリカの機械的ナソロジー学、北欧の生理的咬合学）を、佐藤貞雄先生（元神奈川歯科大学矯正学教授）から咬合学の活用意義を、Rudolf Slavicek先生（元ウィーン大学補綴学教授）からシーケンシャル咬合哲学を、宮岡等先生（北里大学医学部精神科教授）から精神医学の基本、和気裕之先生（元神奈川歯科大学臨床教授）から歯科心身医学の臨床応用を、古谷野潔先生（元日本補綴歯科学会理事長）から咬合違和感

症候群（Occlusal discomfort syndrome）の提案承認を、小野弓絵先生（明治大学工学部電気電子生命学科教授）から脳科学の活用法を、生田龍平先生（神奈川歯科大学社会人大学院卒）から3Dプリンター義歯の可能性をご指導いただいた。

今回は、これらの経験と最近の超高齢社会におけるフレイル、オーラルフレイルとしての歯科医療の新たな意義について飯島勝矢先生（東京大学高齢社会総合研究機構教授）からご教授いただき、歯科における咬合治療が健康寿命の延伸に繋がる可能性を求めて、現在、神奈川歯科大学医科歯科連携センターにおいて臨床実践を行っている経験から、私が考える目指す噛める咬合治療の新たな目標についてお話しさせていただく予定である。

13:30~15:00

リマウントによる咬合調整のススメ（総義歯編）



河原 英雄
歯科河原英雄医院

超高齢社会となった日本である。2016年、8020の達成率が51.2%と報告された。この結果から「高齢者の無歯顎患者は減少するだろう」と囁かれている。しかし現状は減少するどころか、高齢者の人口増加により無歯顎者は増加の一途をたどっている。高齢者の介護施設でも、噛めない総義歯のために満足した食事ができない人が、少なくない。2018年の介護保険報酬改定は、高齢者の自立支援が大きな柱である。

このたび日本自立支援介護・パワーリハ学会主宰の国際医療福祉大学大学院教授 竹内孝仁先生から自立支援歯科学の

発足を提案された。それに伴い、我々歯科医への高齢者の口腔機能の維持回復にますます期待が寄せられている。

今こそ、歯科医としての役割を果たし、期待に応える時である。しっかり噛める総義歯を提供してこそ、国民に歯科医の本当の価値を知ってもらうことができる。歯科医療の現場を預かる私たちは、高齢者の暮らしを支える医療の実現に力を注ぐべきである。患者さんが現在使用中のうまく噛めない総義歯をリマウント調整により、前歯でも噛める総義歯に改善する方法とそれが高齢者の生活をどのように変えるか、について報告する。

15:00~15:30 ディスカッション

第
37
回

日本顎咬合学会 学術大会・総会

真・顎咬合学 最新歯科医療最前線 —夢ある歯科界の再構築

2019.6.22 (Sat).23 (Sun)

東京国際フォーラム

事前参加登録 受付開始 2018.12.3(予定)

特別講演

Horizontal and Vertical Ridge Augmentation — myths versus reality

水平的垂直的顎堤造成術 —— 幻想と真実



BACH LE DDS, MD, FICD

略歴：

1990：カリフォルニア大学アーバイン校卒業

1990-1994：USC 南カリフォルニア大学歯学部 歯科医師免許取得

1994-1995：オレゴン・ヘルスサイエンス顎顔面口腔外科インターン

1995-1998：オレゴン・ヘルスサイエンス大学 医学部 (Oregon Health Sciences U. School of Medicine)

医師免許取得

1998-1999：シーダー・サイナイ医療センター一般外科勤務

1994-2000：オレゴン・ヘルスサイエンス大学・顎顔面口腔外科レジデント

2000- 現在：USC 南カリフォルニア大学歯学部顎顔面口腔外科臨床准教授

2000-2013：南カリフォルニア大学 LAC 病院顎顔面口腔外科レジデント教育

講演抄録

水平的・垂直的顎堤造成術のための多くのテクニックと多様な造成用材料が言及されてきた。この中には、GBR 骨誘導再生術、リッジ・イクスパンジョン、リッジ・スプリット、自家骨アンレーグラフト、チタンメッシュ、仮骨延長術、嵌入型骨移植などが含まれる。多くのテクニックが特定の状況で素晴らしい結果を出しているにもかかわらず、成功を保証できると言えるものは少ない。移植骨に埋入されたインプラントに最も予知性のある結果をもたらす方法はどれであるのか、未だ多くの疑問点が残されている。今回の講義の目的は、水平的・垂直的顎堤骨欠損部にインプラント埋入を行う際に使う多くの骨造成術のうち、予知性の高い方法を見極めるために今日のエビデンスを批判的に評価することである。集めた一連の症例から、リスク評価と中程度から重篤までの多様な大きさの厳しい骨欠損に予知性のあるマネージメントをする方法をお話する。

特別企画 咬合器展示

今年、大変好評を博した咬合器展示を第 37 回 学術大会・総会でも行います !!

テーブルクリニック会場内（ホール E）に、咬合器を特設展示いたします。

* ナソロジカル・インストゥルメントと全調節性咬合器
 歯科界の遺産であり近代咬合学の創始者である McCollum の「Gnathoscope 咬合器」、Granger の「Gnatholator 咬合器」、Stuart の「Gnathological Computer」を展示します。また、「Denar Pantronic」と、Lee の開発したタービンシステムの顎頭運動描刻装置とモーションアナログの展示に加え、新たに「日本で考案された咬合器」の展示を予定しています。ご期待ください。



第36回日本顎咬合学会学術大会・総会 報告

2018年6月9日、10日、東京国際フォーラムにて、第36回日本顎咬合学会学術大会・総会が開催されました。2日間で、4,908名の参加者をお迎えして、成功裡に閉会いたしました。今回はテーマを「真・顎咬合学 輝け日本の歯科臨床!! ～臨床力の向上による歯科界の活性化～」とし、初日に行われた Avishai Sadan 氏の特別講演、中澤正絵氏、西田 互氏、関野 愉氏、伊藤公一氏の公開フォーラムでは、終日ホールCが満席となる盛況ぶりでした。多くの貴重な講演、そして、臨床に即した、レベルの高い口演発表、ポスター発表が行われ、参加いただきましたすべての関係者に感謝申し上げます。

【参加者内訳】

歯科医師 2,932名 歯科技工士 436名 歯科衛生士 959名
 歯科助手 141名 賛助会員 161名 準会員・臨床研修医・学生・その他 279名

第36回学術大会 表彰者一覧

若手歯科医師の登竜門 支部選抜優秀発表者

関 豊成 (関東・甲信越支部) 矢澤一浩賞
 高津 充雄 (近畿・中国・四国支部)

学会誌優秀論文賞

高木 小百合 歯科衛生士部門

第35回学術大会優秀発表者 (口演)

関 喜英 (歯科医師) 深井 康弘 (歯科医師)
 久木田 大 (歯科医師) 坂田 晋也 (歯科医師)
 中川 孝男 (歯科医師) 吉木 雄一朗 (歯科医師)
 友岡 和紀 (歯科医師) 柳沢 亮太 (歯科技工士)
 森本 昌孝 (歯科医師) 持田 由起 (歯科衛生士)

第35回学術大会優秀発表者 (ポスター)

渡辺 優貴 (歯科医師) 川島 茂 (歯科技工士)
 小澤 万純 (歯科医師) 畷地 絢 (歯科衛生士)
 草間 淳 (歯科医師)

メーカー賞

小西 浩介 (歯科医師) カボデンタル賞
 石田 明 (歯科技工士) モリタ賞
 井村 恭子 (歯科衛生士) ヨシダ賞



第35回学術大会優秀発表者 (ポスター)



カボデンタル賞



モリタ賞



ヨシダ賞



優秀論文賞



第35回学術大会優秀発表者 (口演)



矢澤一浩賞

第36回 学術大会 レポート

特別講演 (ホールC 6/9 9:30~12:00)

Practical Solutions for Complex Rehabilitations Using Adhesive Dentistry**接着を用いた複合的な修復治療の実際**

Avishai Sadan

接着の概念、接着の臨床的な課題、最新の技術の3つのトピックスについてレクチャーされました。過去において難しいとされていた象牙質への接着やプレパレーションなしでは不可能だったことが、接着技術の向上およびデジタル化により、現在では可能になったこと、また、接着について、修復材料、被接着面の性状の違いによる接着法の違いを説明されました。そして、空隙歯列の対応法や、エロージョンやアブレーション、エナメル質形成不全、パラファンクションなどによる Tooth Wear への対応について、実際の症例を提示しながら説明されました。

最後に、「我々は若年者から高齢者まで、さまざまな年齢層の患者、先天的な歯の問題をもつ患者や、エナメル質、象牙質、深部象牙質と異なる歯牙状態に対応する必要があります。最新の技術を恐れず取り入れることは、患者の人生を幸福なものにすることにつながります」としめくりました。

公開フォーラム (ホールC 6/9 13:30~16:30)

歯周病と全身疾患

今回の公開フォーラムは4名の先生にご登壇いただきました。講演の前に、山田宏参議院議員より挨拶があり、杉並区長であったときに小学校7校でブラッシング指導を強化したところ、その7校ではインフルエンザの罹患率が他校に比べて約半分に減った経験をしたことから、口腔を健康に保つことの重要性を実感したとのお話がありました。

はじめに中澤正絵氏が「歯科衛生士が取り組む全身管理～糖尿病患者への対応～」をテーマに講演されました。病院歯科で医科歯科連携に関わる歯科衛生士として、臨床を行っていくなかで、プラークコントロールが改善されることにより HbA1c が 0.7 ~ 1.0% 改善することを多く経験するとのことでした。イギリスの大規模研究では HbA1c が 1.0% 改善することで、糖尿病の関連死や脳梗塞、心筋梗塞、血管障害、下肢切断などの合併症のリスクが下がるという報告があることから、歯科衛生士による歯肉の炎症のコントロールがとても意味があるとお話でした。

次に「糖尿病予防と長生きの秘訣は歯周病治療にあり！」として糖尿病専門医である西田 互氏が講演されました。ご自身が8年ほど前に歯周病でメタボリック症候群であった経験から、口腔環境を良くすることの重要性を実感したとのお話がありました。最近では糖尿病治療のガイドラインに歯周病の治療の必要性が載るようになり、糖尿病手帳に歯科医師が記入する欄があるので大いに活用し、診療情報連携共有料などを活用して医科との連携を積極的に行う必要があるのでは？ と歯科界に向けたエールをいただきました。



山田 宏 参議院議員

関野 愉氏は、「歯周病と全身疾患との関係」をテーマに歯周組織の構造と歯周病についての解説をされたのち、アテローム性動脈硬化症、糖尿病、早産、呼吸器性疾患などの疾患と歯周病との関わりについて述べられ、どのような学術的な論争があるかをお話されました。

最後に伊藤公一氏が「歯周病と糖尿病との関連性」について講演されました。まず歯周病は細菌による感染症と生活習慣病の両方の性質があることについて説明されました。さらに実際の症例を通してプラークコントロールの必要性、3～4カ月の継続管理の重要性についてお話されました。歯周病の治療を行うことで高感度CRPの数値が高い患者は、歯周治療によりHbA1cのコントロールが良くなる傾向があるとのことでした。そのため検査値を良く見て糖尿病のタイプを確認しておく必要があり、医科歯科そして歯科衛生士と歯科医師との連携が今後さらに重要になると述べられました。



中澤 正絵



西田 互



関野 愉



伊藤 公一

Informations

● 2018年度 認定医・認定歯科技工士・認定歯科衛生士検定試験結果報告

今年度の認定医・認定歯科技工士・認定歯科衛生士検定試験は4月1日(日)にJA共済ビルカンファレンスホール(東京)で実施されました。その後、4月1日(日)の認定審議会・認定審議運営委員会・歯科技工士部会・歯科衛生士部会の合同委員会において厳正な採点が行われ、その結果は4月11日(水)開催の常任理事会で審議され、新たに認定医89名、認定歯科技工士15名、認定歯科衛生士17名が承認されました。

認定された皆様方の検討を讃え、今後のご活躍を期待しております。

(認定審議会委員長 平井 順)

【認定医検定試験】	受験者 110名・合格者 89名
【認定歯科技工士検定試験】	受験者 18名・合格者 15名(100点満点7名)
【認定歯科衛生士検定試験】	受験者 17名・合格者 17名

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会 News Letter 80

発行日：2018年8月31日

発行者：上田秀朗

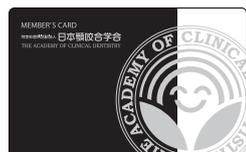
特定非営利活動法人 日本顎咬合学会

〒102-0093 東京都千代田区平河町1-8-2 山京半蔵門パレス201

TEL：03-6683-2069 FAX：03-6691-0261 E-mail：nichigaku@ago.ac

◆ 2018年度 各支部の事業予定 (自 2018年4月1日～至 2019年3月31日)

支部名	区分	開催日	会場	内容, 講師等
北海道	認定医 教育研修会	2018年 10月20日(土)	北海道歯科医師会館 (北海道札幌市)	テーマ:「心地よく咬むために土台を作る—エンドを極める—」 高橋 慶壮 先生 (奥羽大学歯学部教授) 倉富 覚 先生 (福岡県開業)
	支部学術大会	2018年 10月21日(日)	北海道歯科医師会館 大講堂 (北海道札幌市)	テーマ:「三位一体で臨床力の向上を図る!」 特別講演1 「インプラントの咬合をディスカッションする」 座長:野谷 健治 先生 演者:高橋 徹次 先生、吉村 治範 先生、三上 格 先生、黒嶋 伸一郎 先生 特別講演2 「三位一体でメインテナンスを考える」 座長:石尾 知亮 先生 演者:佐々木 ミッシェル 先生、垂水 良悦 先生、藤原 匡剛 先生、 村上 恵子 先生 会員発表8題・テーブルクリニック2題・ランチョンセミナー
東北	認定医 教育研修会	2018年 11月24日(土)	宮城県歯科医師会館 (宮城県仙台市)	テーマ:「心地よく咬むために土台を作る—エンドを極める—」 前田 英史 先生 (九州大学大学院歯学研究院教授) 平井 順 先生 (神奈川県開業)
	支部学術大会	2018年 11月25日(日)	宮城県歯科医師会館 (宮城県仙台市)	テーマ:「歯の Longevity を考える—患者さんとの長期間にわたる関わり合い—」 提言1 歯科衛生士の立場から 「長期的安定を目指した、口腔衛生管理を考える」山口 幸子 先生 提言2 歯科技工士の立場から 「歯周組織にやさしいクラウンを目指す」遊亀 裕一 先生 提言3 歯科医師の立場から 「本当のチーム医療～その補綴で本当にいいの?～」亀田 行雄 先生 会員発表8題・ハンズオン
関東 甲信越	認定医 教育研修会	2018年 11月17日(土)	ベルサール東京日本橋 (東京都中央区)	テーマ:「心地よく咬むために土台を作る—エンドを極める—」 高橋 慶壮 先生 (奥羽大学歯学部教授) 倉富 覚 先生 (福岡県開業)
	支部学術大会	2018年 11月18日(日)	ベルサール東京日本橋 (東京都中央区)	テーマ:「日本から発信する世界水準の歯科臨床!!」 特別講演 歯科医師対象2題、歯科技工士対象2題、歯科衛生士対象2題 会員発表・ハンズオン・テーブルクリニック・ランチョンセミナー
中部	認定医 教育研修会	2018年 12月15日(土)	ウイंकあいち 1003 会議室 (愛知県名古屋市)	テーマ:「心地よく咬むために土台を作る—エンドを極める—」 高橋 慶壮 先生 (奥羽大学歯学部教授) 倉富 覚 先生 (福岡県開業)
	支部学術大会	2018年 12月16日(日)	ウイंकあいち大会講堂 1001 (愛知県名古屋市)	特別講演:北島 一 先生 (静岡県開業) 歯科衛生士向け講演:小林 明子 先生 (東京都勤務) 会員発表:5題 歯科衛生士会員発表:2題
近畿 中国 四国	認定医 教育研修会	2018年 11月10日(土)	中之島センタービル リーガロイヤル NCB (大阪府大阪市)	テーマ:「心地よく咬むために土台を作る—エンドを極める—」 前田 英史 先生 (九州大学大学院歯学研究院教授) 平井 順 先生 (神奈川県開業)
	支部学術大会	2018年 11月11日(日)	ブリーゼプラザ 小ホール (大阪府大阪市)	テーマ:「三位一体で学ぶ大切さ」 歯科医師対象特別講演:洪 性文 先生 (東京都勤務) 歯科技工士対象特別講演:寺尾 登喜雄 先生 (兵庫県勤務) 歯科衛生士向け講演:5題 歯科技工士向け講演:1題 会員発表:5題
九州 沖縄	認定医 教育研修会	2018年 12月8日(土)	エルガーラホール 7F 多目的ホール (福岡県福岡市)	テーマ:「心地よく咬むために土台を作る—エンドを極める—」 前田 英史 先生 (九州大学大学院歯学研究院教授) 平井 順 先生 (神奈川県開業)
	沖縄県主催 認定医研修会	2019年 3月開催予定	未定 (沖縄県那覇市)	未定
	支部学術大会	2018年 12月9日(日)	エルガーラホール 大ホール (福岡県福岡市)	テーマ:「チームで取り組む! 歯科医療!!」 歯科医師・歯科技工士対象講演: 大谷 一紀 先生(東京都開業)・湯浅 直人 先生(東京都勤務) 歯科衛生士対象講演: 加々美 恵一 先生(大阪府開業)・俵木 勉 先生(埼玉県開業)・ 大野 真美 さん(埼玉県勤務) 会員発表: 歯科医師6題・コデンタルスタッフ3題 テーブルクリニック:2題



◆ 会員カード発行のお知らせ

平成24年度より会員カードを発行しております。学術大会・咬合フォーラム・研修会などの受付手続きや単位申請(申請方法は会によって異なります)に必要なとなりますので開催時には必ずご持参頂きますようお願いいたします。

◆ 学会ホームページの「会員専用ページ」をご利用ください

- ・勤務先・自宅・お届け先など登録内容の確認・変更
- ・認定資格・単位取得状況の確認
- ・年会費のお支払(カード決済), お支払状況の確認
- ※コンビニ・郵便振替をご希望の方は事務局までご連絡ください

- ・2018年度の年会費の納入がまだお済みでない方は、至急お振込みをお願いいたします。
- ・過去に未納分がございますと、認定試験、認定医の更新、学術大会への参加ができませんのでご注意ください。
- ・学会からの発送物は郵便及びメール便を利用しています。メール便の場合は転送されませんのでお届けできない場合がございます。勤務先の変更、転居等登録内容に変更が生じた場合は、至急変更のお手続きをお願いいたします。
- ・「会員専用ページ」のご利用には、会員ID(会員No)とパスワードが必要です。ご不明な場合は事務局までお問い合わせください。